離さない

川上弘美

構造理解 次の空欄にあてはまる語句を本文からそれぞれ抜き出しなさい。

第一段（二四三・上1〜二四四・上16）

わたしの部屋の真上の部屋に住んでいるエノモトさんから、旅先で妙なものを手に入れたという電話が二か月前にあった。それ以来、エノモトさんからの「おいしいコーヒー」の誘いがない。桜が咲きはじめた頃、エノモトさんから電話がかかってきた。どうやら、相談にのってほしいことがあるらしい。わたしは階段を〔①　　〕のぼり、エノモトさんの部屋に行った。

第二・三段（二四四・上18〜二四九・上14）

二か月前に、南方で旅をしていたとき、エノモトさんは人魚を拾ったという。

黙っているわたしを見て、エノモトさんは浴室の扉を開け、わたしを招き入れた。そこにはたしかに人魚がいた。人魚は浴槽の中で〔②　　〕を繰り返していた。わたしは人魚のそばを離れたくないと思った。どうやら、人魚は人を惹きつけて離さない存在らしい。エノモトさんは人魚を拾ってからというもの、人魚から離れることができなくなっていったようだ。

わたしはエノモトさんから〔③　　〕を預かることになった。しかし、人魚を引き渡したあとなのに、エノモトさんは浴槽から動こうとしない。真夜中に突然大きな音がしたかと思うと、エノモトさんはうわあ、というような声をあげながら、部屋から走り出ていった。

語句理解 次の各問いにそれぞれ答えなさい。

1 傍線部のカタカナは漢字に直し、漢字はその読みをひらがなで書きなさい。

(1) リンカクがくっきりしている

(2) アミの中に何かがいる

(3) 髪のスキマ

(4) 漁村の小さな民宿

(5) 今でも克明に覚えている

(6) 椅子や毛布や食器

2 次の語句の意味を答えなさい。

(1) うっちゃる

(2) もったいぶる

3 次の空欄にそれぞれ適当な語句を入れて、「目」を用いた慣用表現を完成させなさい。

(1) 目が　　＝神経が高ぶって、眠れない。

第四段（二四九・上16～二五一・上12）

人魚を預かってからいつしか、わたしはエノモトさんと同じ状態になっていた。家事はほとんど手につかず、ただ人魚だけを眺めて暮らした。この生活はいけないとも思わなくなったころ、エノモトさんが部屋に来た。人魚を預かってから、たった〔④　　〕のことである。

「海に帰す」と言い放ち、エノモトさんはわたしを押しのけて浴室に入った。人魚を回収すると、二人は車で海岸に向かった。

第五段（二五一・上14～二五三・下15）

海岸沿いの土手には〔⑤　　〕があり、葉桜になっているものもあった。人魚を捨てようとするエノモトさんに、わたしは自分の声ではないような〔⑥　　〕をかけた。人魚を帰さなければいけないと思っても、声が出ない。やっとのことで人魚を海に放り投げると、人魚が二人の間に顔を出し、赤く薄いくちびるを開いて言った。「離さない」。うわあ、と言いながら、わたしは〔⑦　　〕に向かって走った。しばらくすると、人魚はいつの間にか去っていた。

第六段（二五四・上1～二五四・下16）

「おいしいコーヒー」の誘いがあり、わたしはエノモトさんの部屋を訪れていた。部屋から見える桜の枝が揺れ、わたしは海岸の桜を思い出した。人魚の外見も、人魚から離れたくないという気持ちもはっきりと思い出せなくなっていた。「ずっと〔⑧　　〕でいるだけの〔⑨　　〕がぼくにはなかったのかな」エノモトさんはしみじみ言った。わたしもそうだったのかもしれない。そうして、わたしたちはいつまでも〔⑩　　〕に窓の外を眺めていた。

4 次の空欄にそれぞれ適当な語句を入れて、「気」を用いた慣用表現を完成させなさい。

(1) 気に　　＝心にかかって離れず、心配である。

(2) 気も　　＝そわそわして、落ち着かないさま。

(2) 目が　　＝魅力的で、ずっと見ていたい。

内容理解 次の各問いにそれぞれ答えなさい。

◇第一段（二四三・上1〜二四四・上16）

1 「そのくらいの仲である」（二四三・上9）という表現から、「わたし」が「エノモトさん」をどのようにとらえていることが分かるか。次の中から適当なものを一つ選んで記号で答えなさい。

ア　詳しい人となりは知らないが、真下の部屋に住む住人として最低限の礼儀を払う義務感を抱いている。

イ　機会を見つけて話したりコーヒーを飲んだりする、友人以上恋人未満の存在だと考えている。

ウ　言葉にはしていないが、お互いのことを大切に思い合っているパートナーのような存在である。

エ　気軽に部屋の中に入ることができる信頼感があり、コーヒーをご馳走してもらうことを楽しみにしている。

◇第二・三段（二四四・上18〜二四九・上14）

2 「人魚、と言いかけたがやめにして、このひと、とわたしは言いなおした」（二四六・上10〜11）とあるが、「わたし」は「人魚」をどのような存在としてとらえているか。次の空欄に適当な語句を書き入れなさい。

存在。

3 「このありさま」（二四八・下1）とは誰の、どのような状態を述べているのか。次の空欄にあてはまる語句を本文から抜き出しなさい。

「わたし」が［A］にいたくて、［B］状態。

4 「音をぜんぜんたてないのに、エノモトさんの気配が部屋じゅうに濃く漂っている」（二四九・上4〜5）とはどういうことか。説明しなさい。

◇第四段（二四九・上16〜二五一・上12）

5 「わたしは後じさっていた」（二五〇・下8）のはなぜか。次の中から適当なものを一つ選んで記号で答えなさい。

ア　「エノモトさん」と同様に「人魚」を海に返さなければならないと前々から思っていたが、まだ決断することができなかったから。

イ　「エノモトさん」の様子を見て、「わたし」は彼がふだんひた隠しにしていた男性的な力強さに恐れを抱いたから。

ウ　「エノモトさん」から「人魚」を守るために、「人魚」のそばにいたいという気持ちがはやり、早く浴室に戻りたかったから。

エ　「エノモトさん」が訪れたことをきっかけに、現状を変えなければいけないという気持ちがわずかながら戻ってきたから。

◇第五段（二五一・上14〜二五三・下15）

6 「エノモトさんのまなざしが落ちつかない」（二五二・上6）様子になったのはなぜか。次の中から適当なものを**一つ**選んで記号で答えなさい。

ア　人魚が弱って、ぐったりとしている様子に心が痛められたから。

イ　海面が思っていたよりまぶしく、一点を見ることができないから。

ウ　人魚に魅入られている「私」の、甘い言葉が恐ろしかったから。

エ　「私」の誘いと、人魚を捨てることとに葛藤が生じつつあるから。

7 「離れられない」（二五三・上6）と思った「わたし」が「離さない」（二五三・上8）という「人魚」の言葉を聞いて、逃げたのはなぜか。「離れられない」と「離さない」の違いに触れたうえで、**五十字程度**で説明しなさい。

50

◇第六段（二五四・上1〜二五四・下16）

8 「人魚よりはいいよね」（二五四・上11）と「エノモトさん」が思ったのはなぜか。次の空欄にあてはまる語句を本文から抜き出しなさい。

人が鳥に［　　］ることはないだろうから。

9 「エノモトさん」は自らが「人魚を帰すことができた」（二五四・上15）のはなぜだと考えているか。本文中の語句を使って**三十字以内**で説明しなさい。

主題理解 本文について述べた次の文の中から、**あてはまらないもの**を**一つ**選んで記号で答えなさい。

ア　「人魚」は地上での自らの生活をより充実させるために、自分の世話をさせる存在として、「エノモトさん」と「わたし」を離さない行動を別れの時まで心がけていた。

イ　季節を表わす「鰺」や「若葉」を全体にちりばめ、「人魚」を桜の花びらに重ね合わせるように語ることで、この物語全体におぼろげで儚い印象を与えている。

ウ　「人魚」が海岸で「エノモトさん」のほうは見ず、「わたし」だけを見ていたのは、「わたし」がまだ「人魚」と離れる覚悟がしっかりできていなかったからである。

エ　「人魚」は初め「コーヒー」と同じように、自由に扱えるモノとして「わたし」達の前に現れたが、実際は人間のほうがモノのように扱われていたところが、物語の怖さであり魅力でもある。

オ　「わたし」が「エノモトさん」の部屋に入ったときに嗅いだ「何かの匂い」は「人魚」に対する違和感を表しており、魅入られていくにしたがって「わたし」は何も感じなくなっている。